

# マダニに注意

英彦山青年の家 研修課

平成25年より、マダニを感染源とする感染症「重症熱性血小板減少症候群」の患者が日本国内において報告されており、死亡例も出ています。平成27年5月に福岡県でも初めての感染者が報告されています。すべてのマダニがウイルスを保有しているわけではありませんが、この英彦山においてもマダニは生息していますので、登山や散策等の野外活動を行う際には、特にご注意ください。

### マダニの特徴



大きさは 3<sup>mm</sup>～4<sup>mm</sup>  
吸血後は 10<sup>mm</sup>～15<sup>mm</sup>

活動が盛んなのは  
春～秋（3～11月）

野生動物のいる森林や草地などに多く生息

かまれても痛みやかゆみを感じず、気づかないことが多い

## 【重症熱性血小板減少症候群（SFTS）】

潜伏期間は6日～2週間。症状は原因不明の発熱（38度以上）、倦怠感、消化器症状（腹痛、嘔吐、下痢等）が主で、頭痛、リンパ節の腫れ、筋肉痛、下血などが起こることもあります。

今のところ、有効なワクチンや治療薬はなく、対症療法が中心です。

感染経路はマダニを介したものが中心であるが、感染動物との接触や感染者の体液との接触による感染も報告されています。

英彦山で野外活動研修を行ったあと、6日～2週間で発熱等の症状があらわれた場合、医療機関で英彦山での研修を行ったことをお伝えください。

## 【感染しないためには】

- 野外活動の際には、長袖・長ズボンなどを着用し、肌を隠す。
- 帰着後は、肌や衣服にマダニがないか確認する。



## 【かまれたときは・・・】

一度かみつくと強くくっつき、数日にわたって吸血するので、無理に取らずにそのまま皮膚科を受診してください。無理に引き抜くと、マダニの一部が体内に残って化膿する場合があります。